

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.63



この作品は、人権のまちづくり国見部会の人権作文に応募された国東市立熊毛小学校三年（現在四年生）の丸小野 幸さんの作品です。

耳の遠い人もいるから

熊毛小学校三年 丸小野 幸

わたしのおばあちゃんは、七十七才。耳が遠くなりました。

おばあちゃんがわたしをよんで、返事をして聞こえないから、おこられません。わたしは、ふつうの声だときこえないから、なるべく大きな声で言っておあげるけど、大きい声で言うと、つかれるので大変です。でも、おばあちゃんは、家族で一番大の好きです。

時どき、おばあちゃんは自分で、「もう、おばあちゃんって、死んでもいいな。」

と言います。わたしは、なみだがいっぱいながれます。でも、おばあちゃんは、「死んでも、みんなよろこぶやろう。」と何度もいいます。わたしは、「よろこばんもん。ぜったいよろこばんもん。」

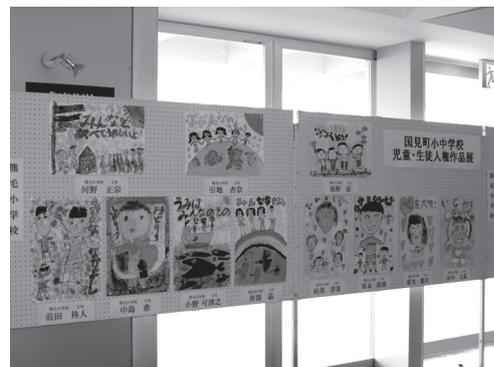
となきながら言います。わたしは、その意味がよくわかりました。だっておばあちゃんに、何回言っても聞こえないので、みんなが、

「もういい。」
 といつて、ちよつとおこるからだと思います。耳が聞こえないけど、おばあちゃんがみんな大好きです。
 おばあちゃんは、耳が聞こえない分、いっしょうけんめいはたらいで、いつもやさしくしてくれます。



▲2011年2月 国見人権フェスティバルで発表する 丸小野 幸さん

うちのおばあちゃんだけでなく、ほかにも耳がきこえないおじいちゃんやおばあちゃんがいるとおもいます。わたしがバレーで走る時、あいさつをしても、聞こえない人がいます。あいさつをしても、返してくれないから、いやな気持ちになります。でも、おじいちゃんや、うちのおばあちゃんのように、耳が遠いかもしれせん。
 お年よりの人とあいさつをしたり話したりする時は、大きな声で、口を大きくあけて話すように気をつけようと思います。



▲2011年2月国見人権フェスティバル作品展示

第4回国東市隣保館まつり
 「まごころの川柳」応募作品

白髪のが子励ます親ごころ

安岐町 田邊 サチ

考えて言っつうつうと悪つうと

武蔵町 糸永 匠汰

お知らせ

☆隣保館まつり（隣保館）

☆同和問題学習会（隣保館）

8月27日（土）午前10時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-68-11722